

令和 5 年度 商業 科 シラバス

科目	ソフトウェア活用	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2 学年
使用教科書	ソフトウェア活用 (実教出版)				
補助教材等	情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報編 1 級 (とうほう)				

1 学習の到達目標

- ・企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成し、実務に即して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身につける。
- ・企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、創造的に解決する力、協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・情報技術は常に進歩しています。よって情報を多面的、多角的に分析し工夫して表現できるように学習する。
- ・授業内で扱うソフトウェアが企業活動においてどのような場面で利用されているか、考えながら活用する。
- ・1月に実施される『情報処理検定』合格を目指し、知識の習得、技術の習得に努める。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
主な評価方法	定期考査 ソフトウェア演習	定期考査 ソフトウェア演習	定期考査 授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章企業活動とソフトウェアの活用	7	・現代のビジネスの実例をとおしてICT活用の基礎知識の学習する。	・ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。 ・ソフトウェアとビジネスや社会課題との関連に
5	第2章情報通信ネットワークの活用	9	・ネットワークの基礎知識からサーバ管理、セキュリティ管理などについての学習する。	
6	第3章表計算ソフトウェア	30	・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な	

7	の活用		<p>の集計と分析に活用し、集計した情報は集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力と知識と技術について学習する。</p>	<p>ついて自ら学び、適切に活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>
8 9 10 11	第3章表計算ソフトウェアの活用 第4章データベースソフトウェアの活用 第5章業務処理用ソフトウェアの活用	8 33 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なテーマをもとに、データベースソフトウェアを活用して、データベースの検索機能、操作するためのSQL言語を学習する。</li> <li>同じ情報にもとづいた判断や行動ができるような情報の一元管理、情報共有の重要性を学習し、業務用ソフトウェアによる情報管理、ICT活用の実際を学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。</li> <li>ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。</li> </ul>
12 1 2 3	第6章情報システムの開発	33	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業活動の改善に対する要求などにもとづき、組織の一員としての役割をはたすことができるように、自ら業務の課題をとらえ、適切な情報システムの開発できる方法を学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを、主体的に考え、思考することができるか。</li> <li>データベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的かつ協働的に取り組み、その技術を身に付けているか。</li> </ul>